

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第5回郷育推進会議
開催日時		令和6年12月17日（火） 18：30～20：00
開催場所		福津市未来共創センター キッカケラボ
委員名		（1）出席委員 木本会長、伊藤副会長、東委員、山口委員、宇都宮委員、濱田真委員、井上委員、濱田遼委員 （2）欠席委員 原尻委員、柳田委員
所管課職員職氏名		郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課郷育係長 田上 智子 郷育推進課郷育係 橋詰 結菜
会 議	議 題 （内 容）	○社会教育の広がりとの連携の可能性について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	3人
	資料の名称	○第5回郷育推進会議 参考資料（「むなかた 子どもの居場所情報 MAP」「令和6年度福津市中央公民館生涯学習サークル」「むなかた市民学習ネットワークごあんない」「文化協会だより」「ファミリー・サポート・センターふくつ」「ならいごとアドベンチャー」「ふくつウェルビーイング大賞表彰式」「まわしよみ新聞」「令和6年度第7回FUKUTSUコミュニティ・フェスタ実施要項」「第6回FUKUTSUコミュニティ・フェスタ」）
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法：会長による確認
その他の必要事項		地域コミュニティ課井上係長やキッカケラボのコネクターなどもキッカケラボの案内のため出席

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会のことば

2. 協議事項

●会長

今回は福津市未来共創センターキッカケラボ（以下、ラボ）と連携し、スタッフのお話を聞くなど、ラボの施設の設備や仕組み、また、市民はどのような使い方ができるかを見学したい。その後、前回の話に続き、社会教育の広がりや連携について意見を出し合っていきたいと思う。

●地域コミュニティ課係長

ラボは、地域コミュニティ課が運営している市の施設である。福津で何かやってみたい、今やっている活動をさらに充実させたいという気持ちがあれば、個人・団体関係なく利用できる。団体は市民活動をしている任意団体だけではなく、非営利・営利の法人も利用できる。営利法人の団体は目的が営利活動のためでなく、福津市のために活動をしていれば相談できる。ラボの窓口には市の会計年度任用職員がおり、まず簡単にお話をし、専門的な相談をしたい場合はコネクターが詳しく話を聞く。相談は、年間約 300 件受けており、ラボにある情報を相談者に繋いでいる。また、団体登録という制度があり、ラボの登録団体になる仕組みがある。現在、78 団体が登録しており、そのうち 16 団体が法人で、残りが任意団体。登録団体は、ラボの会議室などを活動場所として無料で使うことができる。半防音の部屋もあり音楽団体に人気。施設は 10 時から 18 時まで使用できる。

なお、現在「ふくつウェルビーイング大賞」という取り組みをしていて、候補の団体を紹介し投票いただく期間中。表彰式を今週末に開催する。

【ラボの見学】

委員全員でラボの施設内を回りながら、会議室や防音室を見学し、登録団体の紹介カード、施設内外の掲示物やパンフレットラックの意図や工夫などについて説明を受けた。

●会長

前回の会議の延長線上で意見を自由に出し合っていきたい。今日配布した資料の中に、「むなかた市民学習ネットワークごあんない」があるが、情報がきれいに集約されていて、情報が欲しい人にとって求める情報がこのように目に見えるのは非常に素晴らしいと思う。

ラボは市民活動を対象としている印象があるが、市子ども会育成会連合会、日本語教室わかば、アンビシャス広場の活動などは社会教育分野であり、重複する部分が多い。利用や連携の仕方次第で欲しい情報が手に入り、発信したい情報を発信できる可能性があるのではないか。情報の見える化を

することで、市民活動の中に交えて自分達の活動に協力してもらえるなど、情報が集まる場所があり、市民活動をしたい市民の間で繋がりができれば、社会教育の広がりが出てくるのではないかと思います。むなかた市民学習ネットワークは、情報が集まる拠点としてうまく情報発信している事例である。例えば何か習い事をやりたいと思ったときに、この表を見て会場や開催時間などの情報を手に入れることができる。連絡先の情報は、むなかた市民学習ネットワーク事務局が持っており、訪問して尋ねると入手でき、自分で直接問い合わせる。

別の資料の「むなかた子どもの居場所情報マップ」を紹介する。福津市にも学校に行けていない子や子どもの放課後の居場所を作っている方は多い。市が運営しているものは、市が情報発信するので情報を入手しやすい。しかし民間で運営している所の情報はネット検索や誰かに聞くなどして集めるしかない。この「むなかた子どもの居場所情報マップ」は宗像市内で広く活動しているものが掲載されており、裏面からはプレーパーク、寺子屋、外遊び、子ども食堂など種類を把握できる。これは子どもの居場所という視点で見える化されたマップの一つの良い例だと思う。

また、福津市には「ファミリー・サポート・センターふくつ」がある。子どもの居場所に仕事のため子どもを連れていけない人や、学童や習い事の送迎などの手助けをしてほしい人に対し、講習を受け手助けできる人を紹介しつなぐことで支援している。

最後に、次世代教育推進協会主催の「ならいごとアドベンチャー」は、いろいろな習い事を体験できる催し。

以上から、情報の連携と見える化、そして、情報を体験できる場を作るという2点にまとめられると思う。社会教育という視点は忘れずに、これらができないかと考える。実施主体が行政か営利団体なのかという点での課題はあるが、営利・非営利団体が全部自費で行うとなると継続しない。何か還元されるものがないと継続は難しいと思う。

情報としては見せたいが、民営のものは、それを生業としている場合は積極的に出さない方がいいと思っている。

実際にラボにきて見学をしたことで感じたことや、こんなことができるのではないかなど感想・思いがあれば発言してもらいたい。

●委員

今日見て初めて知った団体もある。お互いの活動内容を知る事で、より高め合って作り上げることができたらいいなと思った。今後は、もっと福津市のために頑張る団体を知っていきたい。

●委員

私は普段あまりラボには来ないが、今回はラボに来てみて、様々な団体が集まっているなと実感した。今、活力・気力のある人が活動をしているが、それに参加する人の掘り起こしを考えることが必要と思う。

市内の中学校でトークフォークダンスの企画を行っているが市民に働きかける取組みができるとよいと思う。市民同士のトークフォークダンスもいいと思う。

●キッカケラボコネクター

ラボでも市民同士の交流会を実施しており、まだまだ市民への周知が足りないのを力を入れていきたい。また、ラボが他の自治体のボランティアセンター等と大きく違う点は、コネクターはラボに駐在せず、まちに出て情報を収集し、集めた情報をどう繋げるか考える点である。もっと市民にラボに来てもらうため、ここに行けば市民活動をしてくれる市民がいるなどの情報をもたえたとコネクターとして嬉しい。

ラボの登録団体は、毎年1回、更新をしている。更新時に窓口で会計年度任用職員がヒアリングをし、現在78団体が登録している。それ以外の企業や事業者など、登録していない団体はコネクターが現地でヒアリングをする。

●会長

特に文化協会の団体は多く、活動の曜日と時間はわかるがどんな活動内容なのかが分かりにくい。前の会議で出た竹細工の問題もあるように団体などがラボに行くきっかけをどう作るか考えて前に進んでいけたらと思う。

●委員

分かりやすい団体紹介カードがラボ内にあるが、ラボの外に掲示して手に取れる環境を作り、中に入りやすくするといいと思う。どうしても何か用事がないとラボの中に入ってはいけないように感じてしまうため。

●会長

今年、確定申告が中央公民館（以下、公民館）で実施される。高齢者を含む訪問が増えることを活用して情報発信をする良い機会になればと思う。文化協会だよりは団体と活動内容など一覧になっており見やすいが、社会教育団体も見える化をして情報発信をしていけたらいいなと思う。また、先ほど話に挙がった宗像市の「子どもの居場所マップ」も福津版がほしいと思う。

●委員

KIZUNA ランチのポスターの掲示依頼のため公民館へ来ているが、入口が暗く入りづらいと感じる。また、地域の人と話をしていると、ラボの存在自体を知らない人が多くいる。自分が何か活動をしていないとラボに入れないのではと思う人もいるのでラボに行くきっかけを作れないだろうか。

●会長

公民館へ入りやすい雰囲気づくりができないだろうか。公民館に多くの情報があるので大人も子どもも来たいと思える公民館作りが必要ではないか。公民館に駐車場がたくさんあるという利点も生かすといいと思う。

●委員

ラボと繋がりのない活動とラボをどう繋げるか、来たことのない人がラボに行くきっかけをどう作るかという問題も確かにある。また、公民館の入口を明るくする方法を、学校で子どもたちに考えてもらうのもいいと思う。

以前郷育推進委員であった時、ボランティアセンターで社会教育の計画の諮問・答申があった。ボランティアセンターの方から自ら動くのが難しいと

いう意見があったので、今後は自ら情報を取りに行って社会教育に繋げてほしいと発言したが、ラボを通して実現しているなど感じる。まだラボを知らない人もいたので、知ってもらい機会を増やせたらと思う。

市のふくつミニバスの説明会では、公民館にバス停が無いことについて意見が出ていた。郷育カレッジ受講のため公民館を利用しているが、来年免許返納の予定で交通手段がなくなるから困るという話だった。公民館に行きやすい環境整備を行いラボなどにつなげるといいと思う。

●会長

4～5年前まで公民館まで行くバスはあった。バスを頼りにしていた人もいたので復活できればいいと思う。行政がもっと子どもの視点で考え、市民の自由な発想を聞くことができればいいなどと思う。できるかできないかではなく、やってみたら面白いのではないかという視点で挑戦してほしい。

●副会長

今日は、ラボで行わないと出ないような意見やアイデアが多く出た。繋がりたい人がラボに来ることを前提で考えていたが、初めから市民活動に関心がある人でないとラボに入らない。関心があっても敷居が高いのが現状である。情報を集約し見える化をしても、発信するだけではなくて自然と市民の目に触れるところに情報を出すことが重要。ラボは幅広く価値のある取り組みを行っている。私達は直接のアウトリーチ活動をそれぞれの立ち位置で行うことはできるが、郷育推進会議でアウトリーチ活動を行うのは現実的ではない。社会教育の分野の中でこんな所に情報を出すと良い、など情報を伝えやすくするために行政に対して意見をする役目が私たちにある。施設のあり方については生涯学習推進計画を作成する際に重要な視点になる。

ラボが把握している情報は、ラボの中に入らないと得られないので、例えば、学校の廊下に貼るなど、教育の分野で情報発信をできると思う。福津市は学校教育と社会教育の一体的推進を行っているので、そこに情報を出して自然と情報に触れる環境を作ること。また、学校教育以外での子どもたちの活動の充実を図りたいのでぜひ情報を掲示してほしいと頼むと、市内の学校は協力してくれると思う。郷育推進会議としては独自で調査し意見を言う立場であるのでその役割を実行したい。

ふくつウェルビーイング大賞は、ウェルビーイングな活動をされる団体が、活動してよかったと思えるような活動である。また、企画・運営が評価されることで、さらにウェルビーイングが高まる。ウェルビーイングとは、①身体的な健康②精神的な健康③社会的な健康であるが、ウェルビーイング大賞を行うことで社会的な幸せを高めることができる。ぜひ毎年実施してほしい価値ある事業と思う。活動をしてよかったと思うだけではなく、活動を運営・企画して良かったと思うことができる。

●会長

ウェルビーイング大賞を通して、市内の活動を知るきっかけになる。また、イオンモール福津に掲示することで多くの人の目に触れることができていた。民間企業が多くの人の訪れる場所を提供し情報発信に協力してくれたように、今後も行政と民間企業の連携のあり方を考えていく必要がある。

福津市生涯学習計画の答申書の中で「ひと・もの・こと」について意見を出したが「ひと」については素晴らしい人材は多くいるが、「もの」の公民館という場所での活動をどうしていくべきかを話した。しかし、今は当時なかったラボがあり、情報収集と発信ができる場所としてスタートしてくれた。「ひと」の部分では、ラボは社会教育に関わる人とCSとの連携で学校とのつながりを持っているので、今後も連携してできることが増えていくのではないかと。次回の会議が今年度最後になるが、提案書のようなものを作れたらと思う。学校のタブレット配布によるオンライン化や地域コーディネーターの存在など、現在の計画の策定当時と大きく変化があり、現状に合わせた計画を新たに策定しないといけない。

●副会長

次期生涯学習推進計画の策定に向けての論点整理や提言というタイトルで議論をまとめることができたらいと思う。今期の会議で出された意見を確認して、次期の計画を策定できたらと思う。

●会長

12月1日に社会教育総合センターで開催された子ども育成フォーラムに参加した。情報を上手く集約して見える化をしている点が参考になると思った。誰かが中心になってまとめており、個人で頑張っている状況のところもあり、もしその人が動けなくなったら継続できるか、そして行政とどううまく連携していくかが課題になると感じた。また、子育てと社会教育の連携も課題である。イベントの参加者の大多数は子育てに関する人達であるため、社会教育という言葉を知らなかった。社会教育について情報の共有が今後必要になってくるのではないかと思った。

●事務局

公民館は気軽に集まりやすい場所になるよう、こどもを含めた市民の意見や自由な発想を取り入れながら考えていけたらと思う。また、「こどもの居場所マップ」のような情報が福津市でも広がるといいなと思う。

●会長

今、ラボの場所は昔図書室で、マンガも置いてあり、子どもが多く来ていた。わかたけ広場も遊ぶことができ、託児の部屋もあった。しかし、昔と比べて、子どもが来やすくなっているのが課題と思う。

●事務局

私が入庁した頃は公民館はイベントや祭りが開催されて賑わう場所だった。公民館運営審議会にて公民館の在り方や運営について検討していきたい。また、生涯学習計画の改定にあたっては皆さんの意見を聴きながら作成していくので協力をお願いしたい。

●副会長

大切なのは情報発信力である。もし地理的に不利でも発信ができていれば人は来るものである。

●会長

提言書のようなものの提出に向け、意見をまとめたものを事務局から一度皆さんにデータで送るので修正点などを教えていただいたうえで、次回の会議を実施したいと考えている。

3. 報告事項 無し

4. その他

- ・会長から、1月18日の「まわし読み新聞」の催しの案内
- ・事務局から、1月25日の「コミュニティフェスタ」の案内

次回開催日：3月4日（火）18時30分から 福津市役所にて

以上で終了